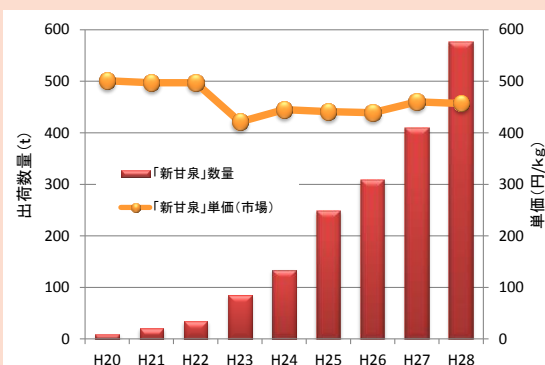


- 鳥取県では、梨産業活性化ビジョンにおいて「新甘泉」等の<sup>しんかんせん</sup>ナシ新品種栽培面積200haを目標に産地づくりを進め、新品種の面積拡大を図った。
- 新甘泉ニューモデル園（「新甘泉」+ジョイント仕立て+網掛け施設）を県内6ヶ所設置し、栽培技術を普及するため県主催の研修会に加え、各地区での研修会を開催し、技術普及とジョイント栽培の面積拡大を図った。
- 関係機関一体となってブランド化を進め、「新甘泉」では、市場単価（400円以上/kg）を維持することが出来た。

### 具体的な成果

- 新品種の栽培面積拡大
  - 新品種栽培面積  
137ha（H25末） → 185ha（H28末）
  - 「新甘泉」出荷量  
248t（H25） → 576t（H28）
- 「新甘泉ニューモデル園」を活用した新技術の普及、面積拡大
  - ジョイント栽培技術向上  
・ニホンナシの樹体ジョイント仕立て栽培管理マニュアル 鳥取県版の活用
  - ジョイント栽培面積拡大
    - ①取組農家数  
6戸（H25） → 50戸（H28）
    - ②ジョイント栽培面積  
59a（H25） → 623a（H28）
  - モデル園の実証調査に基づく経営試算モデルの作成（平成29年度完成予定）

- 新品種のブランド力強化と価格の維持
  - 梨新品種のブランド確立
  - 販売価格の安定化  
市場価格 400円/kg以上の維持



### 普及指導員の活動

平成26年度～28年度

- 果樹担当者による定例打合せ  
・新品種推進の方針決定と連携・調整
- 新甘泉ニューモデル園を活用した栽培研修会の開催  
(県全体)
  - 栽培研修会の開催
  - 新梢管理(6月)、新品種試食(8月、10月)、せん定(12月)(各地区段階)
  - 地区研修会の開催(東部、中部、西部)
  - 各作業適期における栽培指導会の実施
- ジョイント栽培マニュアル改訂とナシ新品種栽培マニュアルの作成
  - ジョイントマニュアル改訂(2回)
  - 新品種栽培マニュアル作成(平成28年3月)
- 「新品種」ブランド化プロジェクト会議への参画(年3回)



### 普及指導員だからできたこと

- ・毎月、関係機関(農業革新支援専門員、園芸試験場、生産振興課、全農とっとり、販路拡大・輸出推進課)での打合せを企画し、効果的な新品種推進について検討を行った。
- ・県全域での研修会は、農業革新支援専門員が主催し、各地地区段階では担当普及指導員が中心に研修会を実施した。

## ナシ新品種導入による産地の活性化

活動期間：平成26年度～継続

### 1. 取組の背景

鳥取県では、平成20年に「鳥取県梨産業活性化ビジョン」を策定し、「新甘泉」等鳥取県オリジナル新品種の導入を推進し、ナシ新品種200haを植栽することを目標に取り組んできた。

また、平成25年度の単県事業で、県内6カ所に「新甘泉ニューモデル園（「新甘泉」＋ジョイント栽培＋網掛け施設）」を設置し、関係機関一体となって「新甘泉」をはじめとする新品種のブランド化とジョイント栽培を普及推進していくこととした。

### 2. 活動内容（詳細）

#### （1）果樹担当者による打ち合わせの定例化

「新甘泉ニューモデル園」設置を契機に、果樹関係者（生産振興課果樹担当、園芸試験場果樹研究室長、JA全農とっとり果樹担当、販路拡大・輸出促進課、農業革新支援専門員）による打ち合わせを毎月開催し、効果的な新品種推進について検討を行った。

#### （2）新品研修会の開催

新品種の普及と栽培技術の向上を目的に、果樹特技普及指導員、新品種栽培生産者、JA指導員等を対象に毎年4回程度の研修会を毎年開催した。またジョイント栽培技術については、県全体の研修会を園芸試験場で開催するとともに、「新甘泉ニューモデル園」を活用し、各地区において現地研修会を開催した。

#### （3）ジョイント栽培マニュアルの改訂とナシ新品種栽培マニュアルの作成

平成25年3月作成「ニホンナシの樹体ジョイント仕立て栽培管理マニュアル鳥取県版」について、ジョイント栽培用苗木の育成方法、ジョイント後のせん定方法等、新たな試験成果を加え2度の改訂作業を行った。

また、平成28年3月には、かねてから要望の多かった「ナシ新品種栽培マニュアル」を作成し、普及指導員、JA営農指導員を通じて農業者に配布し、普及・活用を図った。

#### （4）梨新品種ブランド化プロジェクト会議への参画

平成20年より開催されている梨新品種ブランド化プロジェクト会議に継続して参画し、新品種のブランド化について関係機関と協議推進を図った。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### （1）新品種の栽培面積拡大

ナシ新品種の栽培面積は、当初目標の200haには達していないものの、平成28年末現在で185haとなっており、あと1～2年で目標を達成できる見込みである。

特に「新甘泉」の出荷量は、順調に増加しており、平成28年は576tと平成25年の2.3倍となった。

#### （2）「新甘泉ニューモデル園」を活用した新技術の普及、面積拡大

ニホンナシの樹体ジョイント仕立て栽培管理マニュアル鳥取県版が指導会、現地研修会等で活用され、ジョイント栽培の技術について理解がされるようになってきた。

平成25年に6戸59aであったジョイント栽培の取組面積は、平成28年末には50戸623aとなった。

#### （3）新品種のブランド力強化と価格の維持

「新甘泉」は出荷量の増加に伴い、価格変動がみられるものの、糖度センサーによる集約選果により、果実品質の維持とブランド化の確立が進み、販売価格はkg単価400円以上を維持、450円程度で定着している。

### 4. 農家等からの評価・コメント（東伯農業改良普及所 改良普及員 伊藤直子（現とっとり農業戦略課 農林技師））

担当管内である琴浦町のナシ産地活性化のため、ジョイント栽培による新品種導入推進に取り組んだ。先進導入者の園での指導会やジョイント用大苗育成などを地域とともに進める中で、専門技術を持ち、また全県的な動きを把握している農業革新支援専門員によるサポートは非常に心強かった。「新甘泉」等新品種のジョイント栽培導入は順調に増加しており、今後の琴浦町ナシ産地の発展において大きな一歩となったと確信している。

### 5. 普及指導員のコメント（とっとり農業戦略課 専技主幹 角脇利彦）

ナシ新品種「新甘泉」とジョイント仕立てを組み合わせた栽培が、産地全体に広がりを見せてきた。当初、園芸試験場にしかなかったモデル的ほ場が、「新甘泉ニューモデル園」をきっかけに各地区にでき、身近な栽培方法として認識されてきたと考えられる。

### 6. 現状・今後の展開等

今年度は、これまで得られてきた「新甘泉ニューモデル園」における作業時間、収量等のデータを活用し、経営資産モデルを作成予定である。

今後も、地域の拠点となるモデル園を活用し、新品種とジョイント栽培による産地活性化と、技術普及の推進を図る計画である。